



初等部だより 第2号

鎌倉女子大学初等部
平成25年5月1日

異学年交流を通して！ はぐくみたい温かな心！

部長 松本 安博

初等部グランド横に、今年も色鮮やかなシバザクラが咲きました。

保護者の皆様方には、ご多用の中を「保護者会」並びに「授業参観」にご出席をいただき、誠にありがとうございました。

入学後間もない朝、私はモノレール下のスクールバスの乗り場を訪れました。先日は、見送りだけでしたが、「一緒に乗って！」との声もあり、岩瀬キャンパスまで同乗することにしました。1年生と2年生の16名は、可愛い視線を扉口脇の席に座った私に向けてくれています。子どもたちの話題はいつしか私が入学式で話した「み・ど・り」の話になり、『『み』はなんだったっけ？』『『み』はみんなと仲良くの『み』だよ』の大合唱。私も『『ど』は努力する子の『ど』』と付け足しました。『『り』はお利口の『り』』と続けてくれます。そして、「みどり色を6つも見つけたよ！」の声をきっかけに、みんなの意識は車窓にも注がれました。「あの看板も緑色。10も見つけた」。私を素通りして子どもたちの賑やかなやり取りは、どんどん続きます。

私とその日の運転役や付添いの先生に、「いつもこんなに元気なんですか？」と尋ねますと、「いや、もう少し賑やかですかね！」との返答を得て、普段の明るい表情が思い浮かんで安心しました。やがて弾む声を乗せたスクールバスは、岩瀬キャンパスの正門をくぐり、「ありがとうございました。」の挨拶とともに、子どもたちは丸玄関に向かって行きました。

さて、新年度がスタートして、明日で早、1か月が経ちます。私は、初等部生の生活の様子を見ていて、今とてもうれしく思っていることがあります。それは、笑顔の中にもまだまだ不安な1年生を、最高学年となった6年生が中心になって温かく見守ってくれていることです。

毎朝、6年生の3クラスから各2名ずつ、合計6名が順番に1年生の教室を訪れてくれています。先日の朝、私が1年生の教室に行ったとき、6年生が1年生に本を読んでくれ

ていました。また、校内的着の着替えが遅れている1年生のために、衣服たたみを手伝ってくれていました。教室を出たところでは、右手と左手に一人ずつ1年生の手をつなぎ、どこかへ行こうとしている6年生にも出会いました。1年生と6年生の交流は、朝の時間だけではなくありません。最近では、遊び時間に1年生が6年生の教室に出かけて行き、折り紙をしてもらったり、お話をしてもらったりして楽しんでいる光景も見られます。

23日（火）には、代表委員会の児童が企画した「新入生歓迎会」が開かれ、全校の児童が1年生に歓迎の温かい言葉を届けてくれました。翌24日（水）には、「学校たんけん（1年生活科単元名）」・「学校あんない（2年生活科単元名）」の学習で2年生が1年生の手をとり、校内を案内して回りました。

6年生による1年生のお世話は、5月10日（金）でひと区切りをつけます。教室掃除の手伝いは、1学期末まで続けることになっています。私は、1年生と6年生との交流のように、これからも全校の児童一人ひとりが異学年交流を通して、下級生をいたわる心や上級生を慕う心、他者を思いやる心など、温かな心をはぐくんでいってくれることを願っています。

明日2日（木）は、1年生と2年生、3年生と4年生、5年生と6年生がペアになり、「春の遠足」に出かけます。きっと楽しい思い出をつくってくれることと思います。

